## 編集後記

一年保育と二年保育の功罪を数回にわたって連載論議したが、じゅうぶんに議論しつくされない中に、本年を終えることとなってしまった。どれにも共通に挙げられたことは、二年保育の子どもはいろいろの点で指導された経験を豊富にもっているので、集団生活をたのしむこと、お互におりあって生活することなどがすぐれている点であった。ただしここで同時に指摘されたことは、二年保育の子どもは活発だが行儀が悪く、先生の手をかりないで自分たちの間の問題を処理できるが、片づけ後始末のようなことがおろそかになりがちである等の矛盾であった。これも比較的共通にあげられた点であり、これが一つの保育効果と考えてもよいだろう。更にまた、これらの論議のいずれにも共通に論ぜられていたことは、一年保育児と二年保育児とを同じ組にして、混合編成にすることの望ましくない点であった。それは新入の子どもに圧迫感と劣等感をもたせる原因ともなっている。更にいろいろの面から、混合編成の望ましくないことが論じられていたが、実際に混合編成となることがやむを得ないような場合には、上の問題をどのように解決するだろうか。

五才児から四才児、四才児から三才児と年齢が下るにしたがって、保育はますます複雑になってくる。子どもの自然の生活形態に順応させて、やってゆかないと、三年間の園生活には重複ができてきてしまうだろう。幼児教育はできるだけ早くからといいながら、年齢が下るほどやり方を考えねばならぬことが多いと思う。うまくゆけば非常に効果が上るもののように思われるのだが。

○御意見や研究を寄せられたい。

本年は日本の幼稚園八十年の記念すべきときであった。本誌でも、この機会に昔の幼稚園の状況をできるだけ資料としてとどめておきたいと思い、八月号を中心にして、古い資料を寄せていただいた。これは本誌の第五十五巻を飾るものであった。更に来るべき年々の励みともなるであろう。

**幼児の教育** 第五十五巻 第十二号

© 定価 五十円

昭和三十一年十一月二十五日印刷
昭和三十一年十二月 一 日発行

東京都文京区大塚町三五
お茶の水女子大学附属幼稚園内
編集兼発行者 津 守 真

東京都文京区大塚町三五
お茶の水女子大学附属幼稚園内
発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地
印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町二ノ五
発売所 株式会社 **フレーベル館**

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレーベル館にお願い致します。